別記様式第４号

論文博士用

平成７年２月27日

豊橋技術科学大学長　殿

審査委員長　三宅醇

論文審査及び学力の確認の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	篠部　裕	報告番号	第　75　号
申請学位	博士（工学）	専攻名	システム情報工学専攻
論文題目	企業都市における中核企業の盛衰に伴う都市施設整備に関する研究		
公開審査会の日	平成　７　年　２　月　２７　日		
論文審査の期間	平成　７年　１　月２６日～平成７　年　２　月27日	論文審査の結果	合格
学力の確認の日	平成　７　年　２　月　２７　日	学力の確認の結果	合格

論文内容の要旨

企業都市研究は重要な課題であるが、範囲が広いこと、企業都市が発展衰退の両過程を経験するにはかなりの長期間が必要であること等から、対象を限定しないと的が絞りにくいと言う特徴を持つ。類似の研究としては、その成立過程や工場跡地利用計画に注目したもの、住宅研究としては炭坑住宅の調査研究がある。これに対して本論文では鉱業、造船、鉄鋼の三業種を中核とする企業都市に絞り、その上で企業都市を、都市施設整備過程上での産官（中核企業と地元自治体）の役割という視点から分析した点に特徴がある。

本論文は６章よりなっている。企業都市はその発展期においても、衰退期においても、人口が短期間に急増減し、地域社会に多大な影響を及ぼすところから、第一章では構造不況業種が集中する市町村での問題点の分析、第二章では企業都市の成長発展過程での都市整備における中核企業の役割の分析、第三章から第四章企業都市の衰退過程での都市整備の再編過程分析、第五章では地域再編における産官の役割の変化の分析、第六章では企業都市の都市施設整備における企業のありかたを計画論的に論じるとともに、今後の企業都市の整備と中核企業のあり方についての提言を行っている。

審査結果の要旨

本論文の特徴としては、第一に衰退中核企業を抱える企業都市の発展、衰退の過程を通じて、都市施設整備のあり方を産官の役割の変化と言う視点から分析しており、研究の着想の新しさが挙げられる。第二に企業都市の都市施設整備のあり方の中で、企業都市の成長期にあっては地元自治体の非力もあって、中核企業の施設が代替え的に用いられ、衰退期になると地元自治体が肩代わり、代行整備という重荷を背負されるという企業都市のもつ構造を都市計画的視点から詳細に明らかにしており、貴重な知見が得られており、この業績は大きい。第三に明治以降の日本の都市は、単一企業か複数企業かは別として、産業を基盤に発展しており、日本の近代都市が潜在的に抱えている構造的な問題を明らかにしたと言うことができ、その意味でこの論文の役割は大きい。第四に本論文の対象とする企業都市は構造不況に陥った中核企業のある企業都市を対象としたものであるが、円高や産業空洞化に直面している日本で同様の現象が将来引き起こされる可能性があり、今後の企業都市のあり方、またその分析視点の提供と言う点で、有効な知見を与えている。これらを産業論、地方自治体論を踏まえつつも、一貫して都市工学的分析を行っている。

以上により、本論文は博士（工学）の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

三宅　醇　印	小野木　重勝　印	渡邊　昭彦　印
瀬口　哲夫　印	印	印

（注）　論文審査の結果及び学力の確認の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。